グループファシリテートによる　対話討論会　　平成１６年　２月　発行

丹生ダムかわら版 3

第３号　発行／「丹生ダム対話討論会」　ホームページアドレス　http://www.biwako.ws/seibi/

平成１６年１月１７日（土）、第３回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

３回予定していました討論会の最終回ということもあり、琵琶湖河川事務所の児玉所長の挨拶も会の最後にありました。３回の討論でしたが、様々な角度の"調査・検討項目"が提案されました。

ファシリテーター久先生

丹生ダムの対話討論会全体像

第1段階　　今回（3回＋1回）

＜　目的　＞

・ 賛否を問う前段階問題は何か、どのあたりが論点か。を議論し、共有する。
・ 問題を解決する為にはどんな方策が考えられるか。を議論し共有する。
・ お互い比較検討する為には、どういうことが必要か。を共有する。
・ 代替案を用意するための素材を提供。
・ 調査項目、比較検討項目の素材情報の提供。

第１段階から第2段階にはいるまでの間

・ 参加者の意見を踏まえ、再度国土交通省の方で、２段階目に必要なデータを揃える。

第２段階　　本格的な議論

所長の挨拶

３回に及ぶ丹生ダム対話討論会での熱心な議論並びに貴重な御意見をありがとうございました。

河川管理者として対話討論会でみなさんに議論していただた内容を十分に踏まえ、すでに一部実施している調査検討に見落としがないかもう一度よく精査したうえで、調査検討を進めていきます。

まずは、今後１、２ヶ月を目途に調査検討項目の再整理を行い、それが今回の対話討論会の内容が反映されているかどうかを皆様に確認していただく会を催したいと思っています。その際には、是非、皆様方のご参加をお願いしたいと思います。

なお、今後の予定として、調査検討を進め、河川管理者としてダム計画の方針案を今後確定していく予定ですが、データー等が整理でき調査検討がある程度進んだ段階で次の対話討論会を行っていきたいと考えています。次の段階の討論会では、治水面、環境面でのダムの代替案との比較も含めて議論をお願いしたいと思っています。

その節はまた皆様にご連絡させて頂きますのでよろしくお願いします。３回に渡る熱心な討論本当にありがとうございました。

国土交通省琵琶湖河川事務所　児玉所長

久先生　総括

まだまだ結論に向かっては遠い道のりですが、少なくともそれぞれの皆さん方のお立場あるいは思いがどのあたりにあるかということを、お互いに認識し合えたと思います。今までもいろんな意見交換の場所でそれぞれのお話はお聞きになっていたかもしれませんが、膝をつき合わせて対話という形でお互いに話し合いができたというのは、今回が初めてだったのではないかと思います。そういう意味では、この対話がやっとスタートラインに着いたということで、今回の第１段階の対話討論会の成果であると思っています。まだまだこれからの道のりは遠いですが、第２段階ではまた、ご協力をお願いしたいと思います。第２段階でもっと時間をかけて、回数も重ねて議論をしていきたいと思っています。今回、私も全体の進行役としてお引き受けする時に、ある意味で大変だなと思ったことがございます。何故大変かと言うかは、本当はこれは計画を始める段階に３０年前にやるべき話し合いであったはずです。それを今、やっているところの難しさというものがあるということを私自身も感じます。皆様方のご協力も頂きまして、シンシに議論が進んだことは皆様方にも感謝をしたいと思います。シンシというのは二つの意味で、一つは真面目にと言う真摯ですが、もう一つはジェントルマンの紳士ですね。非常に紳士的な態度で皆さん議論をしていただいたということは感謝を申し上げたいと思います。

どういう方向で方法でやろうかということでも事務局と一緒に悩みました。

どういう結論になるかわかりませんけれども、そのあたりのことも踏まえて、これからも考えていかないといけないという、こういう丹生ダム独自の状況がございますので、このあたりでまた第２段階では議論を重ねて参りたいと思います。

再度２回目の討論会に入っていきたいと思いますので、またその時は、お参加をいただきたいと思います。最後に、第２段階目もですね、できるだけ聞くだけという方よりも、実際に自分も討論に参加をしたいという方が増えてくることを望んでおります。できるだけたくさんの方のお考え、あるいは評価を聞きたいというように思っておりますので、今傍聴におられる方々も、第２段階の時は是非とも手を挙げて戴いて、対話の輪の中で一緒に議論に加わって頂くことを、お願いをしたいと思っております。とりあえずまとめではなくて、これまでの位置づけ、今後の話をさせて頂きました。

討論参加者

（ＧＦはグループファシリテーターの略）

グループ１

河合亮二さん

鳥塚五十三さん

森保幸さん

三國昌弘さん

中川泰三さん

谷口浩志さん

野村東洋夫さん

岸上広さん

石山一光さん

ＧＦ横山葵さん

討論の様子

討論の様子

グループ2

寺村京子さん

鳩代利博さん

千代延明憲さん

児玉博之さん

鈴木秀利さん

丹生善喜さん

南部厚志さん

浅見勝也さん

GF森川稔さん

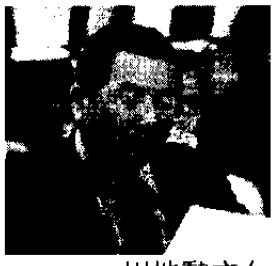
討論の様子

討論の様子

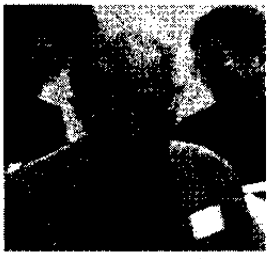
グループ3

近藤斉伸さん

立見安弘さん


川地勲さん

澤村繁さん


西尾新治さん

井口賢一さん

泉良之さん

澤村宗一郎さん

GF中村伸之さん

討論の様子

討論の様子

第１グループ

【　討論参加者　】
・烏塚五十三・岸上　広　・轟保幸　・野村東洋夫
・河合亮二　・三國昌弘　・谷口浩志　・中川泰三（敬称略）
グループファシリテーター：　横山　葵　（有限会社　エイライン）

第３回完成　シート

前　提

- 琵琶湖に入っている40t/s水出しの県の条件
- ダム建設地域の合意を得ている
- 国Rの状況 → 全域の状況
- 異常気象
- ハードとソフト
- 総合力
- 自然とのバランス

現象と課題

地域（まちづくり）
- 移転した地域
- これまで取り組んで来た歴史
- 荒れてしまう故郷
- 流域周辺
- 失われつつある自然との共存のノウハウ
- 地域自慢の自然公園への思い
- 美しい豊かな自然
- 自然と共存する地域としての活性化

治水
- 事前（自然条件）
- 砂やしキで出きた不安定な堤防
- 天井川
- 事中（大雨時）
- 堤防の決壊 → 生命に影響
- 日本：急峻 V形谷 雑・時・短 ピーク・流・大
- 不安を大きくする雨 → 人間に影響（精神）
- あふれる水 → 財産に影響
- 事後（大雨後）
- 引きにくい水 → 長びく影響
- ダムだけによるのはどうか
- 自然とのバランス
- 美しい風景

利水
- 水の状況がほとんどかわらない
- 漁業
- ・過去 ・現在 ・未来
- 異常気象
- 温暖化 → 雪どけ水が確保できない
- 生物の為
- 産卵流下ができない
- 雨の多い少ないの差が大きい
- 景観水（心のやすらぎ）
- 瀬切れ
- 水の状況が（水量減る（水質変質する）
- 農業
- 夜間の未利用水
- 農業排水と濁水
- 飲料水
- 少子化と共に減少の方向
- びわ湖の漁業者経済悪化
- 工業用水
- 社会状況による減少の方向
- びわ湖の魚類減少高時川姉川も同
- 雑用水

環境
- 山の環境
- 土砂の流出
- 保水力の低下
- 開発による環境破壊
- 山が荒れている
- 高時川姉川の水の環境
- 悪化する水質
- スキー場による汚染
- 農業排水等による汚染
- 湯水流量減
- 土砂の流出等によるにごり
- その他開発による汚染
- 瀬切れ
- 河川の環境
- 土砂流出による堆砂速度のUP
- 増える植物
- 琵琶湖と下流域の水の環境

調査・検討項目

- 心のケア対さく
- （地域整備）ダム計画と切離した実施方法の検討
- 歴史の伝承への方法けんとう
- （旧生ダム当時公園高さ80mの現地の出現→コンピューターグラフィックスによる表示
- ダム建設有効
- 多様な治水対策は考えられないか
- 洪水リスクの分散
- ダム必要不可欠
- 利水水路の整備拡大
- 代替案 ①河川改修 ・堤防高上げ（外・内） ・引堤 ・河床掘削（浚渫） ②遊水池 ③農地 ④湿地、水田活用 ⑤緑のダム（植林）
- ・自然環境 ・社会環境 改変する
- 環境面、考慮した最小限の河川改修
- 琵琶湖へのショートカットの検討田川・余呉川農業水路などの活用
- ・土石を止める ・流木を止める
- 堤防の補強（問題のある地点の）
- ダムと代替案の効果の比較
- 30年ではなく100年をみて検討すること
- （ピク洪水調節容量）新ピークで、最高水位1K地下→1600トン放流の場合のシミュレーション
- （利　水）京都府は府営水道の調査
- 農業用水の利用手法は見直しの必要がないか？（逆水水路整備）
- 工業用水の転用
- 水を大事に使う必要がある
- 省庁横断的水利用計画の策定
- 使える水利用調査計画と啓発システム
- 利用への教育
- 使える委員会などの検討
- 森林保全ボランティアでは限界あり
- 新しいシステムの検討
- ・流域の公有地化 ・監視
- ダム建設洪水時貯留
- 堆砂の原因とりのぞく対策方法
- 魚類・そ上・産卵に必要な流量
- 瀬切れ ・生態系破壊 ・魚類へい死 ・地下水低下
- 河床変動のデータと原因と対策
- 瀬切れ対策として ①多目的湖の湯水 ②第3湖の検討 ③地下水、伏流水の検討
- 高時川上流の堆砂がすごい原因調査と対策
- 姉川・高時川両河川共の川底高さ
- 瀬切れ解消流量は3m³でよいか
- 琵琶湖水位低下防止（ダム放流）
- 堤外畑の件
- 274億tに対しての高時川のあるべき姿

第３回　全体報告

報告者　：　野村東洋夫　　サブ報告者　：　鳥塚五十三

◎水源地域の問題
・ダム中止の場合、水没予定地の計画、検討すべきである。
・ダム建設の話は下流圏の利水の要望が強かったから起きた問題であり、その約束はどうなっているのか知りたい。
・ダムの自然公園化について、渇水時にダムはきれいなものではない。ダムの大きさから考えると裸地が大きな面積をしめることが予想される。CGなどで景観を目に見えるように。

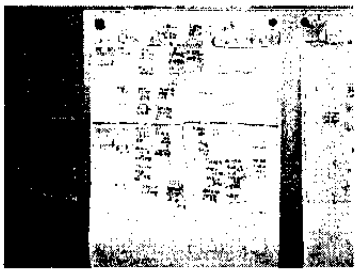
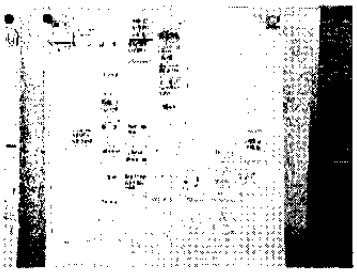
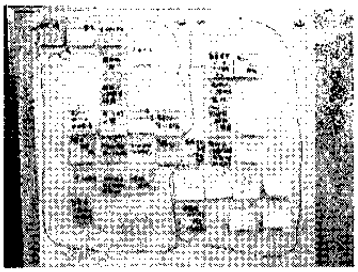
◎治水
・ダムをつくらない場合。どういう代替案があり、その効果を比較検討してほしい。合流点までの上流からショートカットも代替案として検討してほしい。
・異常気象などを考慮すると30年では短い。100年先までを見すえた検討をしてほしい。

◎利水
・農業用水、全体を見ると必ずしも適正ではない。余っている場所足りないとこがある。用排分離をするべきである。農業従事者の減少によってきめ細かな管理ができていない。
・国交省は農林省と合同でこの問題にとりくむべきである。
・京都の利水調査をしてほしい。

◎環境
・高時川のにごり。堆砂が進んでいるので、これらの調査をする必要がある。
・琵琶湖の環境改善は丹生ダムの１つの目的である。
・丹生ダムをつくるとどうなるのか。シミュレーションをしてほしい。

補足
・丹生ダムについてという建前上、原案での議論が出されていない これは問題点はないのかという事になり、次は原案を勉強し検討していく。
・利水と環境を同時に深めないといけない問題が多い。
・高時川と琵琶湖をどうするのかという事も考慮し、生態等についても話し合う。

シート写真

討論中に出た意見

・第２１回委員会資料を勉強し、調査検討項目にもれがないかどうか第４回までに考えておく。
・お互い認識しあう必要がある。
・地域の人の河川改修とダムの必要の認識を共有する必要がある。
・高時川の上流はそのままで、逆に下流は都市化を進めすぎた。
・上流と下流の約束があり、下流が水利権をほしいということが始まっている。
・下流圏と滋賀の信頼関係が大事。
・歴史の中で建設省が、地元にダムを頼んだ事がはじまりである。
・下流のために、移転した人の心のケアをどうするのか。
・もし中止になった時の水没予定地を考える必要がある。
・ダムが作られるとした時にダム完成までの間も整備する必要がある。
・下流圏としては見直す事に責任を感じる。
・地域整備とダムを見直すことは切り離して考えるべき。
・中止になった場合でも整備について考えるべき。
・水没地域は納得するだけのケアはされている。
・水没地域は開発が決まったとき、30%の保証をもらった。
・漁業者は生活を追われてしまっている。
・移転した人々は納得したというよりも苦渋の選択をしたということを分かって欲しい。
・既存のダムを見たがきれいではない。丹生ダムは治水容量がある。環境改善容量がある。全部出したら80m水位がさがる。裸地がでて、殺風景な光景が発生する。それが冬場まで続く可能性がある。景観についてCGなどで景観検討をする必要がある。
・治水、利水の枠内で考えず、人間の生活を豊かにするものを考えるべきでは。
・下流にも何年かに１回渇水、洪水はありえる。
・自然の脅威は大きい。我々は先人の知恵になるべきである。
・洪水には、様々なパターンがある。
・洪水は、７月～９月におこることが多い為、この時期の水田には、ダメージが強く、収穫に大きな影響を及ぼす。
・代替案としては河川改修、引堤、河床掘削などが考えられる。
・代替案としての遊水池は平野部では考えられない。
・水田利用は個人のものであるから遊水池としての利用はむずかしい。
・森林保全は治水には対応できない。
・ダムの容量にもよるが、異常気象に向けてダムだけに治水を頼ることは危ないのではないか。
・治水はダムだけではなく河川改修もある。
・代替案としてダムだけではなく、溜池をつくる事も考えられる。
・水環境にはハード、ソフトの問題点がある。
・ダムは建設を反対したとしたら、災害が起きた場合の責任はもてない。
・１つだけに頼るのではなく、いろいろな方法に分散すべきである。
・いろいろな事を検討してから答えは出すべきである。
・治水について。丹生ダムをつくらなかった結果、代替案でいけるのか検討してほしい。
・堤防について、破堤するところとしないところを調査する必要がある。
・農業用水などの河川をつかって琵琶湖にショートカットできないかを検討してほしい。
・地下水路を何百kmもつくったのだからそれらを作ることができないか。
・水利権はふえてはいない。絶対量が減っている。
・高時川は瀬切れと洪水の繰り返しである。
・水利権と治山をほったらかした結果である。
・利水について、京都府はどうなのかを調べてほしい。
・琵琶湖の水位が低下している。琵琶湖のコイ科の産卵に影響。
・維持流量が必要である。
・異常気象などを考慮すると、30年ではなく100年は見て検討してもらいたい。
・農業用水がもったいない使われ方をしているのではないか。
・上から下の田にまわしていないのではないか。
・省庁がかわると水でも見方がかわってくるのでは困る。
・上から下に田んぼの水をまわしているので、田植えの時などは下の田に水が来ない所もある。
・農業排水が余っていて、その水を戻すことで濁水となる。
・農業政策に問題がありすぎる。
・林地保全。
・泥がそのままでる工事は滋賀県も余呉町もまったをかけるべき。
・農業は大型化していて水まで管理できない。
・バルブがない田んぼでは、水のムダが発生する。
・環境の方がウエイトが高い。
・河床が高くなっている。5%±10%砂実際は20～30±。場所によって違う。
・砂利採集が必要である。
・下は砂がたまる。
・高時川上流の堆砂の原因調査。
・台風があるとマイナス水位でドーンと水がくると砂をもってくる。
・堆砂がたまると堤防を上げる。その繰り返しが今の環境を作ってきている。
・冬の北風の影響も知る必要がある。

第2グループ

【　討論参加者　】
・丹生善喜・浅見勝也・寺村京子・コ玉博之・千代延明憲
・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博　　（敬称略）
グループファシリテーター：　森川稔(株式会社　アーバンスタディ研究所)

第3回完成　シート

異常気象

治　水
～流域の生活を守る～

H.8移転
地域の苦しみ
転居の苦しみを
考えるべきだ

地　域　Ⅰ
～これまでの取り組み～

自　然
～自然環境の保全～

・経緯の
再確認
明らかに
すべき

地　域　Ⅱ
～地域の振興～

水のコントロール
～瀬切れの問題など～

・地域振興策として、地元は
ダムを活用
したい

・上下流の連携
ができないか

・ダムを生かした
観光は可能なの
か？
・事例を知りたい
・インフラ整備
(道路)は若者の流出
を促進させる

シート写真

財　政
～負の遺産～

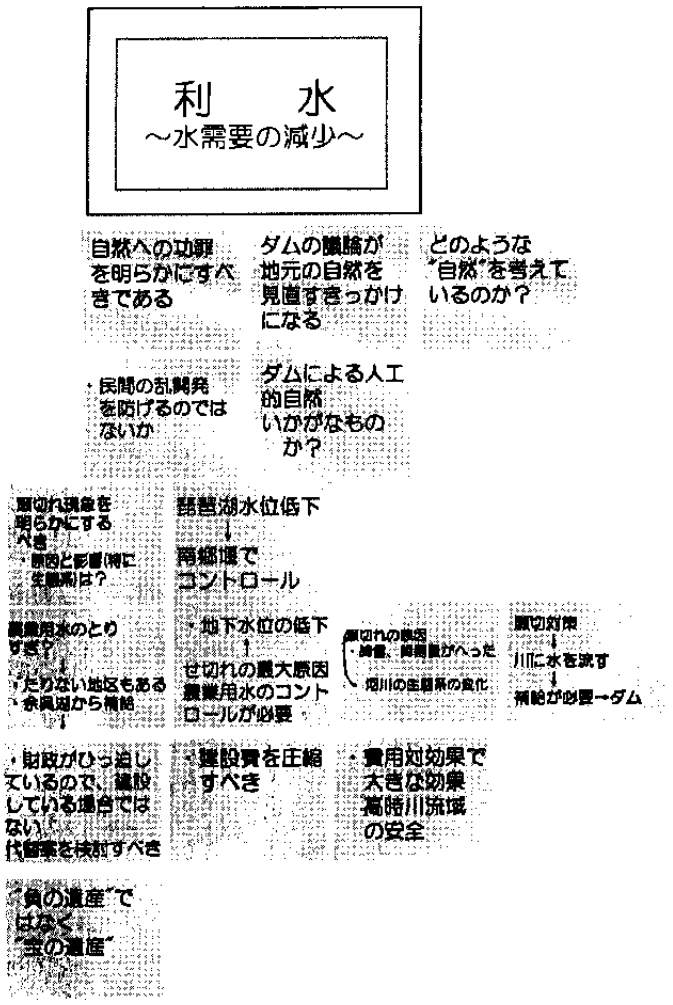
第3回　全体報告

報告者　：鳩代利博

5つのテーマについて議論をした。
「地域Ⅰ～これまでの取り組み～」
「地域Ⅱ～地域振興～」
・地元の大きな犠牲の上に成り立っていることを理解する必要がある。
・地元の人にも分かっていないこともある。
「自然」
・自然とはどのような自然なのか。自然の定義は？
・ダム建設による自然環境への功罪を明らかにする。
・民間の乱開発が防げるということもある。
「水のコントロール～瀬切れ～」
・瀬切れの原因と影響(特に生態系)を明確にしていく。
・原因は、雨・雪の量の減少、地下水の低下、農業用水としてとられる、などが考えられる。
「財政」
・逼迫している。
・予算を圧縮する代替案の検討が必要である。
・費用対効果を考える。

討論中に出た意見

・安全性についての議論は特におこなってきた。
・水没地域の方々が平成8年には移転された。生まれ育った地域を離れた人は大変な苦しみを感じている。
・ダム建設によって土地を離れた人たちの心情を理解しよう。
・利水は今の状況では必要ない。
・移転者の中の年寄りは大変である。
・今まで取り組みをしてきたことを皆が認識すべきだ。
・現在は財政や景気など時代は変わってきている。
・現状を正確に把握すべきではないか？
・過去までの取り組みは、将来のために必要だ。
・土地はすでに買収されている。（ダム建設のために）
・ほったらかしになる土地は、今後の取り組みで考えていくべきではないか？
・ダム周辺の住民の協力が今までの取り組みにはあった。
・人口はどんどん減っている。
・高齢化が進む。
・地域振興を考えて、今までの取り組みがあった。
・ダムを作って、補助金をもらおうという考えがおかしいのではないか？
・取り組みの経緯を明らかにしていくべきだ。
・ダム建設で水特法によって、福祉の向上がはかられる。
・36くらいの事業がおこなわれてきた。主にインフラ整備。



・過疎化地域において、ダム建設は観光資源になる。
・先行工事で道路建設がすすんでいる。ダムが建設されようがされまいが関係ないのでは？
・観光としてダムを使うのがよくわからない。琵琶湖もあるのに、観光として成立するのか？
・人口がどんどん減っている。
・地域は過疎化を防ぎたいという思いがある。
・過疎地域になにか拠点をつくらなければ。
・自然を楽しむ、釣りを楽しむなどソフト面での方策を考えている。
・成功事例をふまえなければならない。
・道路ができれば、過疎地域から若者が流出してしまう。
・インフラができればできるほど、過疎化は進行する。
・大企業を誘致でもしなければ無理ではないか。
・観光のためにダムを作るわけではない。
・部外者が議論するのはナンセンス。
・皆の認識が必要。
・余呉町だけで「観光」など考えていくべきではない。
・下流とどのようなやりとりができるのかを考えていくべきだ。
・明らかにすべきことは、上流と下流でうまく取り組みできることはないだろうか。
・水特法にもとづく事業が展開されたことは明らかにすべきだ。余呉町はダム建設に伴う将来ビジョンがあった。
・成功事例は参考資料として必要ではないか。
・ダムがあるから、地域振興をするという考えがおかしい。
・地域自身が努力すべきだ。

自然環境
・ダム建設の議論が、破壊だけでなく、維持していくことを考えるきっかけになる。
・ダムは琵琶湖の水位低下を抑制する。
・水は自然に流れるべきだ。
・植生はきれいな水によって育まれる。
・すべては利点、欠点である。バランスを考えていくべきだ。
・土砂のどのくらいの量を下流に流れるようになっているのかは不明である。
・ダム建設に民間企業が入ってきている。民間の営利目的のために活動している。
・個人の山が民間の手に渡らないよう補償金等使って守っていくべきだ。
・自然は人との関わりでできる。
・自然にはすでに人の手が加えられている。
・自然に対しての利点と欠点をより明確にして示されるべきだ。
・ダムに頼らない取り組みを行うべきだ。
・今まで補助金を出してやせた山に手入れをしてきたが、山は荒れている。
・自然との共生をもっと考えていくべきだ。
・ダムがつくられた後の新たな環境を考えていくのも大切だ。
・動物に対しての環境を考えるべき。データがないから議論できない。

水のコントロール
・堰のコントロールを考えていくべきだ。
・瀬切れは何が原因で起こったのか？
・丹生ダムは水のコントロールの観点で不必要だ。
・瀬切れは部分的に連続的におこっている。
・S60年代はじめ頃におこってきた。
・降水量、降雨量の減少。
・瀬切れによって、川の生態系が破壊されている。
・琵琶湖の水位低下も生態系を破壊している。
・自然現象にまかせては瀬切れは解決できない。人工的な取り組みが必要。
・川には瀬切れをおこさないために水量が必要だから、丹生ダムが必要。
・農業用水をとりすぎではないかという点については、実際農業用水は足りていない。琵琶湖から水を引き上げている。
・地下水の低下が瀬切れを引き起こしている。
・高時川は天井川だから、水が地下に流れていく。
・農業用水の量はどのくらいかを明確にしてほしい。
・発生した時の影響をはっきりしてほしい。

財政
・現状は最低限の取り組みしかできない。
・今までやってきたからといって、やってしまうのは問題。
・予算を圧縮できるのでは？
・ほんとに負の遺産なのか？
・ダムはどんどん劣化していく。
・昔のような成長をしている現状ではない。
・琵琶湖計画当初に丹生ダムはあった。
・丹生ダムは洪水対策（治水）が第一であった。その後下流域の需要で、利水の観点が加えられた。
・金の問題ではない。地域住民の意志を尊重すべきだ。
・費用対効果は見込める。
・ダムによって、どうして洪水がおこらなくなるのか？
・堤防の決壊の方があふれるより被害が甚大。

議論を終えて
・ダムには反対。
・財政の点で反対。
・いろんな視点がダム建設には必要。
・堤防強化をしていこう。
・指標となるデータがほしい。
・楽しい議論ができた。そして、その大切を感じられた。
・ダムに頼らない町づくりをしていきたいと思う。
・住民の生活を守っていく大切さを実感した。
・もっと関心を集める必要性。
・丹生ダムは過去、現在、未来において正しいと思う。
・現在の問題は、ダム建設で解決できるだろう。

第３グループ

【　討論参加者　】
・澤村宗一郎・近藤斉伸・西尾新治・泉良之
・澤村繁・川地勲・井口賢一・立見安弘・小梶猛
グループファシリテーター：　中村伸之(ランドデザイン)

第３回完成　シート

テーマ１
「治水・利水」

総合的な治水 →バランスはどこにあるか

キーワード

- ダム計画条件の再チェック(治水・利水)
- 河床林の伐採も必要
- 地域が必要とするダムとは治水と利水の再チェック
- 河床林が水の流れを悪くする(帰の管理)
- ダム計画条件の基本データの再チェック
- 荒れた山を何とかする(治山)
- 自然の山ならば荒れない
- ダムと河川整備のバランス
- 洪水の危惧 びわ町
- 計画高水流量 農業や農業用水のデータは本当か？
- ハザードマップつくる
- 1月11日の発表(毎日新聞) 治水ダムならばOKかチェックする
- 山崩れ
- 洪水の不安

- 洪水のピークが早くなる よくにごる
- 二次林 原生林が荒れてない山
- 台風10号 350mm 217mm 下流は危険 350mmでもOK
- 渇水
- ピークの遅れ 12時間 ↓ 6時間
- 製紙会社が撤退
- 洪水対策のダム
- 総合的治水 ダム－河川（バランス）
- びわ湖の水位 農業関係者
- スキー場開発
- 水位調整のシミュレーション
- 植林によって荒れた
- 新たな利水 ダムはつくらない
- 利水 田んぼの水がなくなる
- 無理のない植林
- ソフト面、洪水ハザードマップを早急に作成する
- 水源の荒れよう
- 姉川 夏では泳いだ 農村下水 小石に藻がつく
- 1/11の発表 治水ダムの否定ではない
- 浸水被害を想定し、避難計画を立てる

キーワード

- 水と生活のかかわり(農業、防火、遊び)
- 産業よりも生活用水としての地下水
- 文化、歴史、民俗を調査し残す
- びわ町も地下水
- 防火用水的機能
- 総合的な生活用水

第３回　全体報告

報告者　：泉良之、立見安弘

総合的治水・利水
1．治水・利水。
ダム計画再チェック。
国交省→やらない。
丹生ダムは残せるのでは？
山荒れ→植林に問題。
ブナの植林。（民間が小規模に行う）
・河川林の伐採。
集中豪雨→水が一気に増水。
川の木を切ったらダメだけど、流れの問題もある
・汚れた水が流れてくる。
スキー場の開発。
ダムの必要性。
・ハザードマップ作り。

2．水と生活の関わり。
農用水、防災用水に使われている。
高月町→地下水利用。

移転した地域の文化を残すべきである

3．コスト負担
今あるダムが有効に使われているのか検討が必要。

テーマ2「環境・文化・生活」

- 土地を放棄している人にもいろいろな立場がある
- 堤防の高さの不公平がある
- 水の歴史は米づくりだけではなく…地域の水として集落の利活用
- 水質のみならず河川の全環境
- 水利権 農業用水だけでなく生活の水
- 子どもの遊び
- 農業用水 慣行水利権 水不足
- 開発による濁水地域用水 農業用水BOD
- 高月町では水源は地下水
- 藻の繁殖 農業用水
- 企業の地下水利用 水としてのかかわり
- 家庭ポンプ 家庭の水 高時川の水
- 町の水道は全部地下水

テーマ3「コスト負担、税金」

- 流域の人が一体になっていることを示す
- 文化、歴史を残す
- 文化、民俗を調査する
- 今までのダムの評価 利水、治水、環境
- 他府県の水需要のチェック
- 一般会計（多目的ダム） ユーザー負担
- 水資源機構
- 岐阜県徳山ダム
- 生活の変化対応できる
- 地域の中でも議論する機会をつくる。地域がもっと関心をもつべき

討論中に出た意見

1．総合的な治水とは

・11日新聞で、国交省が新ダム×、水需要必要性なし、新計画プランとあったが、関係有るのかないのか？我々の気持ちはどこへ？
・水需要必要性なし。
・源流から淀川に流れる事情が違う。
・河川改修だけでクリアできるという考え方もある。
・水質の問題だけでなく、川環境（子供の遊び、ホタルなど）の指標化を考えていくべきではないか。
・ダムと河川整備のバランスはどうするのか。
・洪水の危惧をどうにかしたい。
・ダムは必要。
・移転までしたのに整備をやめるとはどういうことか？
・洪水の不安。
・渇水との関係。治水と利水の両面でダムは必要。
・コントロールの面で丹生ダムは必要。
・田んぼには1日おきにしか水がまわってこない。
・高時川の渇水。
・ポンプは2、3日でなくなる。
・農業用水が必要なときに水不足。
・社会は変化したが地域の水をうまく使っているところもある。
・農業用水をとりいれたことで、住民は利活用している。
・水利権は農業用水のためのみでない。
・現在の容量の中で、渇水対策で下流も負担できないのか？
・水利権は建前。
・丹生ダムは多目的ダムだから、利水･治水･水力発電、総合的に作るべき。

2　環境とのバランス。

・高時川の上流の荒れようはすごい。
・ブナ林すごかった→植林した。
・計画的な植林すべきだった。
・今見に行くと、雪とかで使いものにならない。
・荒れてない山のイメージは原生林。自然林なら山は荒れない。
・場所や手入れが適切ならば植林も良いが…
・製紙会社(今は撤退)。
・住民レベルでブナ林植えた。→規模小
・山が荒れると山崩れが起きる。
・スキー場の開発は集落としては重要(現金収入)。
・砂防ダム作っても効果なし。
・ダム放流によってどれだけの効果があるのか(シミュレーション)
・琵琶湖の水位調査という話は、一般の人は深刻に受け止められない(漁業関係者のみ)。
・森林は生産林だけでなく環境を守る森林。
・開発一本やりの政治のツケがきている。
・大手企業がやってもふみこまなかった。企業の開発は荒廃を残した？
・田中知事の脱ダム→全国へ。
・ダムに変わる代替案。
・姉川ダムには基準がある。
・ダムに頼らない治水(堤防の強化など)。
・国でシミュレーションして、データ出すべき。ダムの規模が分かるし、ダム以外でもいけるかもしれない。
・高水流量と農業用水の取水量がこれでいいのかを再検討。国交省だけでなく農水省も関わるべき。
・開発による濁水(BODの懸念)で田んぼに水がいるピークに藻が発生、富栄養化現象。
・膨大な財政負担。
・琵琶湖から水をポンプアップするお金が地元負担となる。
・地域用水＝農用水。
・藻のせいで洗濯もできない。
・昔は姉川で泳げた。
・農村下水ができて沈殿ができる。
・ダムは造る位置によって変わってくる。
・流れをよくする→木を切る(河床から生えている)。
・河床が上がってきている。
・県の管理だ！
・ふだん流水がないから河床に木が生えてくる。
・洪水ハザードマップの作成。
・洪水発生時の人命救助。
・避難対策の整備も必要(ソフト面)

3　福祉、地域振興

・移転された方のケアをどうするか(町内も町外もある)。
・保証もケアも。
・気持ちの問題も大事。
・いろんな立場の人がいるから(自然のまま残して欲しい人もいる)。
・水没予定地については、調査して文化・歴史を残す。(生活文化も)
・集落ごとの文化は異なるから調査すべき。
・水の差別を受けている人がいる(堤防が一部的に低いなど)堤防の高さの不公平。
・山田川→高時川せきとめられる。
・安心した状態にすべき。
・高月町では地下水が各住宅へ。
・渇水期影響が大きい。
・高時川は天井川に近い。

・工業の発達は水と関係している。
・高時川の流量が大事。
・川に水がきちんと流れている状況が不可欠。
・高時川の伏流水が影響。
・防火用水的な利用は見逃していけないのではないか？
・昔からの防火目的を失ってはいけない。

4　コスト負担、税金

・事業費の上積み(岐阜県のダムの場合)
・水資源機構が全部金出すのか？結局は税金。
・ダムの費用は治山治水特別会計。
・ダムの建設はユーザー負担と国民負担。
・高月町では議論対象にはならない。
・国税と県民税で負担される。
・ユーザーも払うべきだが大阪府は拒む。
・大きな公共事業をどうにかしてくれ。（国民の見る目は厳しい）
・余った水は戻すべき。
・今まで作ってきた施設の効果を評価すべき。

本日のグループファシリテート運営への感想

・不必要なものは当然いらないが、必要な公共事業もある。
・流域の人々と一体となって取り組むべき。
・根本的に見直すべき。
・住民としては全国で一番だろう。
・議論する機会が必要。
・社会の要求に関心をもって対応。
・生活の中身は変わってきた。
・豊かな生活で平和ボケ。見直すべき時期にきている。
・グループ別の会場にすべき。
・議論の内容が浅い。
・論点がバラバラ、対話討論になっていない。
・今なぜ対話討論なのか、発言者は解っていない。
・国の基準に従って決断すべきである。
・グループによって議論のバラツキが大きいがこのあとどうまとめていくのかに大変興味を持っている。
・あやまった知識に基づく議論はどうするのか、部分的な事実を誇大に表現した議論はどうするのか。対話集会の価値が問われるのでは…あるいは単に時間の浪費なのか
・これまで２回の対話討論会と、基本的には変化がなかった。ファシリテータが話のピントを絞るため、討論の進め方を提案して始まったが、結果として各自勝手な意見を発表するだけで集約する方向には進まなかった。
・ファシリテーターが自分の意見を発言しすぎるのは少し問題があると思いました。（多少はあってよいと思いますが）
・今日は第１班の討論を聞かせていただいたが、ファシリテーターの方の進行等(特に議論のかたよらないよう)が良かった。
・ファシリテーターと意見委員との準備不足により対話討論に入るまでの過程に時間が取られた。
・少人数での運営なので、意見は多数出され、理解もある程度深められたと思うが、傍聴しにくい。
・もう少し、仕切をすればスムーズに出来るのではないか
・良かった。
・対話集会の方法として、１つのよい方法だろうと思う。
・討論者の声が、３グループでかき消されていたので工夫が必要。
・対話のラウンドテーブルの大きさが発言内容に変化を与えるか？
・若者の(純な)意見も取り上げるべき。
・第１グループでずっと傍聴してたが、言いっぱなしではないという風にやっているみたいだが、やはり、話し合いをしているようで「言いっぱなし」であるという点が見受けられた。まだまだ意見の偏りが大きい。(特にダム推進派の方々)
・天から降り海へ帰る水、第３グループで水は川へ流し海へ帰すべきとの話があった。そのとおりと思う。要するに天気の都合が悪くなくても水のコントロールは必要なのだ。上流ー下流、県別等と区別せず丹生川から海へ流れるまで流域一体化して考えなければならない。そのとおりだ。
・おおむね良好。
・毎回だされている意見が聞き入れられていない。声が小さく聞き取れない。
・現状最良の方法と思います。
・議論の中でもう少し資料データも提供しても良いのではと思われる。
・良かった。
・２班に参加したが、うまく運営していた。
・中々よくやっている。
・論点が多く時間不足と思う。
・全３回とも同じグループに傍聴として参加させていただいたが、第１段階として、とりあえず最終回ということもあり、討論者のうち、ダム推進意見をお持ちの方が「ダムありき」「ダムをやるためには」という発言にかたよってしまい一方に見直し案や、追加調査等々の意見があるのに、耳を貸さないというような最終回答を決めつけてしまっているような時もあり、残念だった。
・地場産業とのかかわり→丹生川は「あゆつり」のメッカである。(最近はダメ)
・下流の住民としては(びわ町)姉川、高時川の合流している地域に位置しており、姉川ダムは完成しているのに高時川はできない事になると不安(治水)は何も解決していない。
・合流している所を一度見ていただきたい。昨年の台風１０号でさえ河川敷の畑地は全て湛水し被害が出た。大きな台風が来た時の対策も考えてほしい。
・もう少し発言者の発言ポイントを趣旨に沿って発言するよう指導してほしかった。
・討論者の声がほとんど聞こえませんでした。隣のグループの女の人の声は大きくはっきりしていたので言葉もよく聞こえました。
・グループの中でわけのわからない委員がいる。そんなわけのわからない人を討論会に入れるな、前に進ま無い。
・討論の内容が傍聴者にとって聞きづらい難点がある。
・最初に「調査項目を列挙する」という目的をはっきり言ったので、1,2回目よりスムーズに進んだが、初回にこの目的をはっきりさせておくべきだっただろう。
・討議をしぼりこんでやった方がよい。
・各項目とも論点がしぼれなかった。ファシリテーター、討論参加者とも不慣れということが原因。
・有意義であったと思う。
・時間内にまとめる努力をしていた。
・時間にかぎりがあり、少し意見をさえぎる事もあった。
・この問題の専門家でない方が、G.Fとしてよかったのか少し疑問が残った。
・時間の制限に苦労されていた。

・テーマを絞り、導いたことは進行上、話題を出し易かった。
・よくまとめていただきました。
・第1回、第2回と比べ、充実した内容となった。「行政への意見、要望を出す」ことに全員がなんとか集中できたため。

この対話討論会を通じて気づいたこと

・地元の主張は固まっていて柔軟性に欠ける。
・国交省が地元説得につかった論法を、ここで、繰り返しているように思えた。
・流れは良いが、まだ、十分では無い。
・出席者のダムに対する基本知識の差がある。
・もっと早い段階で、このような住民からの意見を聞く機会をやっておいた方が良かったのでは･･･？遅すぎた感は、いなめない。
・データーの不足で論議出来ない。
・色々な意見がきけてよかった。
・時間的な制限の中で仲々煮つまった意見の交換がむずかしかった。
・お互いの意見を交換し、お互いに何を考え、感じているのかが理解された。このことは事業を進める上で、誤解を消すのに役立つ。
・河川の大切さがよくわかりました。
・地元の意見がよくわかった。
・もっと深く議論したい。
・地元の人達は、地元の事柄については詳しいものの、必ずしも琵琶湖や淀川下流部、他のダム計画、基礎原案の内容などについて詳しくないこと。

この対話討論会の問題点は

・1人当りの対話時間が少ない。
・ある人にかたよりすぎている。
・1～3回の間隔があき過ぎて、議論が収斂しにくいもっと間を詰めてやるべきではないか。
・治水、利水。
・傍聴者のアンケートにもあったのだが、反対派の出席者がもともと少ない為に、グループのまとめ発言でも、「全体として、ダム賛成者が多かったのでは･･･」などという発言がされてしまった。構成員の出席をもともと両者半々にするなどして、出席依頼し、工夫を最初からしておくべきであったと思う。
・官側のデーターに何が有るのか皆様に伝わっていない。
・横道にそれてしまう事が多いのと、端的に要点をかいつまんで話をする必要がある。
・参加者がどの程度意見を代表しているか不明である。
・いろんな意見が交換が出来てたいへんよかった。
・遅きに失した感がある

意見交換は十分にできたか

・グループでやるから、議論が詰まりかけたときに、話が別のところに行くということが多々あり、時間が不足したという以上に、論議の進め方がヘタという面が強い。
・まだ十分では無い。
・まだまだたりないのではないのか。
・１人当たりにすれば、数回しか発言機会がなかったのですが、自宅で自分の考えをまとめておけば、これ位でもいいのかと感じた。
・意見交換準備としては出来た。
・あまり十分ではないかと思う。
・テーマを絞って討論したのであるが、必ずしも十分な時間ではなかった。しかし、あるレベルでは意見交換ができたし、成果もあったと感じる。
・十分にできました。
・十分でもない。
・不十分。第２段階で掘り下げた議論のできることを期待します。

要望

・基本的な知識や認識のベースの資料を出す必要がある。発言者のなかには知識の不足や不勉強（ダムに関する専門的な事でなく、ごく普通の知識）が目立つ人がいる。
・ピントを絞るための工夫が必要。分科会方式。
・第２段階以降は、問題点の抽出でない。川づくりの将来像を皆が共有する場である。したがって、円卓に河川管理者も入るべき。河川管理者と地域社会が将来像を共有し、適切な役割分担のもと援助して川づくりを進める必要がある。
・高時川、姉川、琵琶湖は、国ではなく県が管理しているWSに河川管理者(国、機構)が入るならば、県も必ず入るべき。
・県が地域社会と将来像を共有する場として取り組まれている「姉川・高時川、川づくり会議」と統合すべきである。同じような取り組みが錯綜すべきでない。地元が混乱するのが心配である。
・河川局に十分な資料開示がされているとは思われなかった。
・淡海川づくり検討会議の意見まとめを第３回に提示してほしかった。
・本会の到達点がよく見えない。本会は何を目指しているのか。また、進めるのか。この課題について対応されたい。
・意見交換は丹生ダムに直接関わるものとそうでないものに分けて後者についてダム建設とからめた議論をすることによって一般的な地域振興問題や水源地(林)保全・治山に拡散することをやめない限り非効率です。

・この討論会の経費が税によってまかなわれているのだと思いますが、そのコスト（額）と財源内訳（全額国庫なのか地元負担もあるのか)明らかにして行ってください。
・そもそも、第２段階が開催されるという情報はみんな知っているんでしょうか？
・第１段階での、意見の合意（３回行って）は、なされていないと思うので、第２段階では合意が生まれることを希望したい。
・会議途中で後何分か？とのマイクは討論者や傍聴者にとってじゃまである。紙などに表示して各会へ提示するか見れる所へはるべきだろう。
・討論中のまとめ発表はこまる。（傍聴できない）
・建設期待の要望事項(瀬切防止、河川改修、しゅんせつ)等を重視して長期的視野ですすめて欲しい。
・討論に参加されている人達の認識が部分的な人が見受けられるので、起業者も参加して要所で資料提示説明されてもよいのではないかと思います。
・第１段階の結果により、調査・検討項目を再整理し、第２段階へ進むということなので、方向性に期待ができる。ただし、本当の地元、下流住民、水利権者へ、いつ頃どのようにというようなスケジュールを計画していなければ、せっかくの討論会が薄れてしまう。
・ダム代替案(引堤、河道掘削等)を行う場合における環境への影響についても認識を深めておく必要がある。
例1　引堤の場合
淀川本川の例では淀川の人口、資産の集積状況から1/200の安全度で基本高水流量を17,000立方m/ｓとし、ダムで5,000立方m/ｓ洪水調節して河道配分流量を12,000立方m/ｓ(元は7,000程度の流下能力)とした。もし、ダムの洪水調節がないとすると、500mの引堤を行わなければならない。(経験的に1,000立法m/ｓあたり100mの河幅)この場合に約37km×500mの間に存在する住宅・工場等を移転するための土地が自然破壊を生むことになる。丹生ダムでも同様である。
・国交省がどの程度、議論を進めやすい材料を提供できるかにかかる。
・ぜひやって下さい。
・こういうグループ討論形式にするなら、小さい部屋３つがよいと思います。１つのフロアーで３つのグループでは声が聞こえませんし、隣のグループの人の声が邪魔になります。
・流域委員会もそうでしたが、長引きすぎです。仕事でやってる運営者はいいですが、参加者はたいへんです。住民参加に興味がありましたが、「住民参加＝休日返上」という気がしてきました。進め方については、もっとスピーディーにできるように、ファシリテーターや国交省が介入して欲しい。あと、13時からだと1日つぶれるので午前か夜(夕)にして欲しい。
・対話時間をもう少し多くしては。
・何を議論するか、最初から明確にしておくべきだ。
・実状視察をしては？
・第１段階の課題をキチット出席者が共有してから進めることが必要。
・ダムに替わる代替案でも、治水がカバーできるのかどうか、(河川改修、遊水池、かすみ堤など)のシミュレーションを示してほしい。
・ばく然とした話だけで論議していても、まとまらないように思う。
・自然への基礎データーを①降雨量に対する保水容量と時間。②降雨量に対する河川堤防の必要高さ。③緑のダムの効果のモデルデーター。
・もっと色々なデータをくわしく出してほしい。
・テーマを絞り、グループで集中討論することも必要である。
・琵琶湖の深いところの水質はどうなるか？水位講習会において水深40mの水をのんだ事がありました。
・更に深い論議を期待する。
・ダムの必要性をきっちり認識し、早期完成をめざしてほしい。
・是非第２段階の討論会に参加したい。
・日曜日の開催を希望します。（土曜日は仕事上、休みではないため）(天ヶ瀬、余野川、大戸川は日曜日開催)

この対話討論会を通して驚いたこと

・みなさんよく勉強されている。
・淀川流域委員会でいわれているような代替案など全く頭にない。
・実情をもっと知って意見を言うべき。
・みんながどうするべきが、まじめに議論していた。
・行政関係者を、自分の応援団のように、傍聴者として動員するのは、やめて頂きたい。
・水に対する基本知識が不明である。
・流域の周辺の人々があまり関心がないのに驚きました。
・女性が少ない。
・「上流　中流　下流」の思いがちがった事。
・この対話討論会の位置付けが、予想以上にしっかりしたものであること。

ご意見・ご感想

・今日対話討論されている事項はダム着工前に又工事推進中に反対、賛成で議論がつくされている。
・今なぜ此の様な場があるのか、それは国の財政問題以外にないと思はれる。国は中止したいのでしょう中止に軟着陸するための手法として此の様な手続きをするのであれば、時間浪費の無駄である。
・対話、討論されている項目は当局が既に理解している事ばかりであると思います。可、否の決断を早急にすべきと思う。
・今回始まった対話討論会としてはこんなものかと思う。ただ対話討論会のやり方に新しい工夫が必要なのではないか。ポストイットカードで整理する方法はこの様なダム問題などではなじまない方法ではないか。従来からのポストイットカードを使った合意形成の方法ではなく、会議の進め方に新たな形が必要ではないか。
・今回発言された内容は一部の住民を代表する声ではあるが、具体性にとぼしく信頼できる根拠もない意見が大半であった。

・地元の利益代表のエゴとも言える話もあった。
・淀川下流部の渇水安全度は、琵琶湖からの洪水を一時的に瀬田川洗堰でストップさせていることで高まっていることを、皆さんに知ってもらいたい。
・洪水の心配があまりない人が、洪水に対して軽いタッチで発言されているように感じました。
・世論を聞くことは重要ですが、世論がまちがっている場合もある。
・討論者の私見が多く、勉強不足である（発言が幼稚）。
・高時川水域の実情が把握されていない（可能性のない提案）。
・議論の途中でも、現状や経緯を河川管理者はきちんと説明すべき。でないと実効性のある結論にたどりつかない可能性があると思います。
・少なくとも私は途中で何度も言いたいことがあった。思いも語りたかった。
・このような討論会に参加したのは初めてですが、このように、様々な立場の人が意見を述べる機会は少ないと思います。大変意味のある事だと思いました。
・ダム建設にあたり事業目的が参加者にどれだけ理解されているか疑問がある。水位確保の為という事業と解釈とすればダムありきを問題とされるが、丹生ダムは流域の人と大阪、京都の下流方々に滋賀の流域活動をしている団体の問題として取り組むべきである。
・本会の到達点がよく見えない。本会は何を目指しているのか。また、進めるのか。
・水資源機構についてその採算はどうなっているのか。という質問についても「しっている人いませんか」となんで、議論者の間でききあわなければならんのか。そこに機構の支社長が座っているのに。このしくみでは発言できないのは、もっともである。制度に大いに問題がある
・参加者の発言がわかりにくい。これを他人に理解させるコーディネータが必要。コーディネータが自分の理解能力をもって理解してはいけない。
・地域の振興の問題や水資源（山林）の保全の問題の中には丹生ダムに関わりなく考えられるべきものがあるはずであるが、混然一体となった議論が行われている印象。良かった。
・対話討論会に参加して、重大な課題が集まっていると思います。これが地域住民の声として集約していき、ダムの必要性について、ダム建設の即時着工を希望します。
・ダムと治水、利水、環境の一体で解決策。
・今ダムの建設によって、50年100年前の河川、琵琶湖に回復できると思う（自然、利水治水環境）。
・5年の工事期間でも解決できると思います。そして　これからも森林育成に力を投入し自然を守っていくことができ一石二鳥で問題解決できると考える。
・余呉町丹生地区では、丹生川よりpomp　upし田の水を利用している。昔はなかったが新たに田を作る事となった時点で水利権は下流にあると水の利用が認められなかったのである。現時点では、どうなっているのか？ダムは作らない水はいらないという下流域の人たち、又琵琶湖もダムの一つではないかと私は考えます。

・農業の考え方がH16年の法律で変わり田を作らない人が増加している田はこれもダムの一つ（頂水の一つとある新聞で読んだ事がある）減すれば水の量が減少するのは必至である。積雪による針葉樹の折そんで木の管理はおれれば価値がなくなりほったらかしとなってしまう。今後はどうするのか？山は荒れ保水力はおちる一方だ。広葉樹は管理が少なく保水力が強い。どちらにしても水は流れるのでありこれをコントロールする方式が必要なのだ。だれがコントロールするか。討論されていない。
・利水者の方の意見は、現状の水余り財政だけで議論されているが、過去の歴史、現状も社会状況、自然破壊がこくこくと変化している中で計画と事業遂行されている認識が不足しているのではないか。財政を言うのであれば自分たちの安全性また主張している環境対策、文化財調査、保存も事業の中で取り組まれていることを認識すべきである。
・代替案も提案されているが、代替案は断片的なものであり、その事業に要する期間・費用また波及する被害、損失が考えられていない。
・今後調査、検討してほしい意見に対して、不可能であるとか既に調査済という反論がよく出た。一般の人は、省庁間の壁や技術的な問題について詳しく知らないのだから、そういった意見に対しても、今後、丁寧な解説、説明をしてほしい。
・参加した全員が第１段階とはいえ、全３回でどのような結果（意見質疑等）を出すのかという心づもりだったと思うので「推進or見直しの最終結論を！」というようになってしまったところもあると思う。とは言え、数多くの考えが出され、再認識できるとても大切な場だった。今後は全国的に省庁間や政治の形にはまらない本当に必要な姿を見出していけるようになればと思う。
・検討して欲しいと出た項目１つ１つについての答えを出して欲しい。
・丹生ダムに対する地元関係者の要望の強いことが判りました。
・多数問題があり、話が収束しないと先が見えてこない。
・いろんな意見がでているからやり方としては面白い。

・ダム建設にはいろんな意見があるが下流ダム反対の意見の方で全く現地の地理等を知らない方が多すぎる。すなわち、現況の水利、水路の改修でダム建設をしなくても良いと言う方は現地の地形の高低、等を知らずに記している事に憤慨する。反対意見を出すのなら一度現地に行って現況を知れ。
・横できいている国交省の人は、議論のあい間でたすけ舟を出してほしい。例えば、基礎原案でのダムの位置付け(効果、ダムの功罪をどうみるか)などを教えてほしかった。
・計画当初から最近まではダム建設地(余呉町)対、国の構図で対立し、流域は部外者の感じであった。
・脱ダム以降流域は一体化して、18,000人余りの署名が集まる程に建設推進に向け盛り上がっている。
・地域に約束された国の事業であり守ってもらいたい。
・全3回の討論会の傍聴してきた者ですが上流と下流の双方の交わりがあり相互の意見の理解がいかに大切であることを痛感しました。
・水はただ流れるものではない山を守って水が確保できるのです。この事を下流の人達も充分に認識してほしいです。都会の人がやってきて山菜とりだといって根こそぎ取って行きます。地元の者はこんな乱暴なことはしません。またゴミをもってきて捨てていきます。口先ばかり環境をうったえているがまったく反対の行動をしているのです。しっかりと国民としての心得をしてほしい。
・おもしろかった。
・各グループの発表は各グループのファシリテーターがすべきである。
・他のグループの声が聞こえてきて聞きづらかった。

・全3回の対話討論だけでは、論点が多く意見項目の集約は不十分と思われる。もう少し続けた方が良いのではないか。
・相互理解は難しいようだが、双方の持つ意見が客観的に見えてきました。そうすることで対立する意見の中の順位のようなものが感じられました。一番たいせつなのは治水だと思います。
・住民参加の新しい形として、興味深く参加しましたが、意見がまとまるわけがないと思ってました。しかし、対立意見が同じ場で整理できたことで、行政が取捨選択しやすくなったと思います。「住民が決断する」ということは、住民参加の幻だと思うので、やはり、国交省に、しっかりと決めさせるべきだと思います。
・参加者のみなさんご苦労さまでした。
・計画決定された物件は10年ぐらいで完成さすこと。30年以上も過ぎてから経済的な理由で素人に色々と話しを聞いても時間ロス(これもお金のもち)そこそこ聞いたら学者が決めればと思う。
・討議者は、現地上流を調べてから討論した方が良いと思う。
・同じ問題定義のくり返し、ダムの是非論になりがちで本質が充分討論出来ていない様に思う。

「対話討論会」の運営に関してのご意見・ご感想

・国交省の担当者も、グループに入って、国としての考えも入れながら、話を進めた方が良かったのではないか。(最近の国の方針をしゃべってほしかった)
・再度時間が必要。
・色々なことが関連しているので、ジャンルを分けるとなかなかうまく意見がかみ合わない。
・いろんな人々があつまってよかったと思います。

今後の予定（対話討論会開催日）

第4回　2004年4月4日（日）

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願いします。

お問い合わせ先　〒520-2279　滋賀県大津市黒津4-5-1
琵琶湖河川事務所　調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077 546 0844（代表）